

# 日々の祈り

2024年7月8日(月)～13日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・信仰の迷いや弱さの中にある兄弟姉妹が、慰められ、強められ、新たにされて歩めるように。
- ・各国の為政者が御心に従って正しく歩むことができるように。
- ・一週間、全国の教会のそれぞれの祈りの課題と、伝道の働きを覚えて祈りましょう。

8日(月)

マタイによる福音書 5章 43～44節

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

昨日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちが、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈ることは、自分の力では全く不可能です。しかし、イエスさまは、まず神さまに敵対するわたしたちを愛し、神の御子を迫害するわたしたちのために祈ってください、そして御自分の命を与えて救ってくださったのでした。このようなお方と一つに結ばれ、共に生きる幸いに与ったのですから、わたしたちは、イエスさまの御心を思い、イエスさまの歩みに従い、イエスさまに支えられつつ、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈る者とされていくのです。

9日(火)

レビ記 19章 18節

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

神さまがわたしたちに求めておられることは、わたしたちが神さまを愛し、また自分自身を愛するように隣人を愛することです。この御言葉を前に、わたしたちはそのようにすることが出来ない、自分の罪を見つめざるを得ません。しかし、神の御子イエスさまが、そのわたしたちの罪を担うために来てくださいました。そして、わたしたちの罪を贖い、新しくし、御言葉に従って生きる道を拓いてくださったのです。

10日(水)

ヨハネの手紙一 4章7節

愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

わたしたちの愛は、貧しく、自己中心的な愛です。「敵を愛しなさい」と言われても、わたしたちの中にはそのようにできる愛はありません。敵をも愛する愛は、神さまからしか出てこないのです。敵対するわたしたちを生かすために、御子イエスさまの命をも惜しまず与えてくださる愛。この愛を知り、この愛を受け、この愛に生かされるとき、わたしたちも神さまの愛を源として、本当に愛することを始めることができます。

11日(木)

ローマの信徒への手紙 5章8節

しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

イエスさまが御自分の十字架の死でお示しくくださったのは、敵対するわたしたちのために最も大切な御子の命を与えてくださる、驚くべき父なる神さまの愛でした。しかし、この愛によってこそ、わたしたちは罪の滅びの中から救われ、生かされたのです。そして今やわたしたちは御子イエスさまと一つに結ばれ、父なる神さまの子とされ、この愛の中で生かされています。だから、わたしたちも神の子として、父なる神さまの愛と恵みを受け継いだ者として、愛し合う生き方へと召されているのです。

12日(金)詩編 139編 1~5節

主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。前からも後ろからもわたしを囲み／御手をわたしの上に置いていてくださる。

明後日の主日礼拝の御言葉です。マタイの「山上の説教」の中でも有名な「思い煩うな」との御言葉を聞きます。天の父なる神さまは、わたしたち一人一人のことを、究めておられます。わたしたち以上に、わたしたちのことを知っておられます。そして、前からも後ろからもわたしを囲み、御手をわたしの上に置き、守り、支え、導き、祝福を与えてくださいます。このようなお方が、わたしたちの神であり、このようなお方を親しく父と呼ぶことが許されているのです。だから、わたしたちは本当は、何を思い煩うこともありません。

13日(土)

マタイによる福音書 6章31節

だから、『何を食おうか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

明日の主日礼拝の御言葉です。天の父なる神さまは、わたしたちが必要なものを、すべてご存知であります。だからわたしたちは、目の前のことではなく、神の国と神の義、つまり、神さまのご支配と、神さまと共に生きる恵みを求めるべきです。そこに、すべての必要が満たされていきます。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』